

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針に基づく藤枝市民会館の
利用に関するガイドラインについて

(街道・文化課)

令和2年5月11日作成

令和2年5月15日作成

令和2年6月19日作成

令和2年9月17日作成

令和2年11月26日作成

令和3年3月1日作成

令和3年5月1日作成

令和3年8月13日作成

令和3年8月19日作成

令和3年9月10日作成

令和3年9月30日作成

(下線部は前回からの変更箇所)

今後の施設利用について、10月1日(金)から下記のとおり対応する。

なお、このガイドラインは、新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、随時改定する。

記

- 1 「新しい生活様式」の実践例(別紙1)に基づく行動、基本的な感染防止策を徹底・継続して行うこと。
- 2 感染防止対策の徹底
 - (1) マスク着用の要請(飛沫感染対策)
 - ・マスクを着用していない人がいた場合、主催者側で配布する
 - (2) 大声を出すことの制限
 - ・大声を出す人がいた場合、個別に注意等ができる体制をとる
 - ・演者が発声する場合、舞台から観客まで一定の距離を確保する(最低2m)
 - (3) 手洗い・手指の消毒の奨励
 - ・施設内のこまめな消毒、消毒液の設置
 - (4) 密集の回避
 - ・入退場時や休憩時間の密集を回避する措置や十分な換気を行う
 - (5) 飲食の制限
 - ・休憩時間中及びイベント前後の飲食等による感染防止の徹底
 - (6) 参加者及び出演者の制限
 - ・発熱や軽度であっても、せき・咽頭痛などの症状のある人は利用しない
 - ・過去14日以内に発熱等の症状があった人は利用しない

- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある人は利用しない
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある人は利用しない
- (7) 参加者の把握等
- ・事前予約時または入場時に連絡先を確実に把握する
 - ・接触確認アプリ（COCOA）等を活用すること
- (8) 演者の行動管理
- ・有症状者は出演・練習を控える
 - ・演者と観客が催物前後・休憩時間に接触しない確実な措置を講じるとともに接触が防止できない恐れがある場合は開催を見合わせる
 - ・合唱等、声を発出する演者間の講じる防止策（マスク、フェイスシールド、マウスシールド着用時）に応じた適切な対人距離の確保、適切な換気の実施
- (9) 催物前後の行動管理
- ・交通機関・飲食店等での密集を回避するため、分散利用を呼びかける
- 3 1及び2の対策の徹底を前提に、当面、観客が大声での歓声・声援等を発し、又は歌唱することがない場合、収容人数以内の利用を可能とする。大声での歓声・声援等が想定される場合は、50%以内とする。（異なるグループ（または個人）間では座席を1席空け、同一グループ（5人以内に限る）内では座席間隔を設けなくてもよい。このため、収容率が50%を超える場合がある）
- 4 公益社団法人全国公立文化施設協会が作成した劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン等を踏まえ、拡大防止のための取組を適切に行うよう留意する。

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m（最低1m）**空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、**人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する**。ただし、**夏場は、熱中症に十分注意**する。
 - 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に**洗う（手指消毒薬の使用可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒** 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保
- 「**3密**」の回避（**密集、密接、密閉**）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離がオンライン

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成